

県 民 集 会

～ あいさつ ～



令和8年2月1日13:00～
於：宮崎市宮交シティ紫陽花ホール
北方領土返還要求宮崎県民会議
会長 猪 野 滋

こんにちは。

今日は、こういう柔らかい雰囲気の会場ですので、ぜひリラックスしてご参加いただくと幸いです。

まず、日曜の午後にもかかわらず、多くの方にお集まりいただき、ありがとうございます。

今回で7回目となりますが、日本国、宮崎県、宮崎市をはじめとする県内の市町村のご支援、そして、多くの方々のご協力をいただき、おかげさまで7回目となる今年もこうやって県民集会を開催することができることを心からうれしく思います。

今でも数多くの災害が起こっておりますが、今から、31年前の1月17日、関西で「阪神淡路大震災」という、6500人も人の命が奪われる大きな地震がありました。

ぼくの親戚も被災するとともに、僕の妻もあと一日ずれていたら、今この世にいなかったということもあり、今でも、僕にとっては忘れることのできない出来事です。

あの震災で、もっとも被害がひどかった神戸市の長田区に鷹取中学校という約700人の生徒が学ぶ学校がありました。

当然この学校の周辺も地震の被害に見舞われたわけですが、700人の学校に約5000人の人々が避難してきました。

700人の学校に、家や家族を地震やその後の火災で失った約5000人の人々の避難民が、そこで生活せざるを得なくなったわけです。

体育館はもとより、各教室が避難してこられた方々の生活の場となりました。

そういった状況の中で、鷹取中学校の生徒の皆さんは、なかには自分の両親を災害で失った生徒もいたわけですが、先生方と協力して、がれきの中を行方不明の級友を探し回ったり、避難している人たちに対して十分に行き渡らない弁当を工夫して配ったりと、本当に誠心誠意、朝も昼も夜もなく、学校内外で救援活動に当たったそうです。

その中で一番大変だったことは何だと思えますか？

それはトイレの掃除でした。

700人の学校に5000人の人が生活しているわけですから、いくら仮設トイレをつくっても、すぐに大便がトイレからあふれかえってしまうわけです。

そのあふれかえった人の大便を、中学生の子どもたちが手ですくって、別の場所に移す作業を毎日毎日行っていたんですね。

自分の大便ならともかく、他人の大便です。

みなさん、できますか？

トイレ掃除大好きな私でも、さすがに自信がありません。

すごいですよね。

そして、そういった大変な状況のなか、生徒の一人が、こんなことをつぶやいたそうです。

「これくらいのことだったら、ぼくにもできるんだなあ」

どうですか？

みなさんこれくらいのことって言えます？

自分の大便でもできるかどうか自信がないのに、他人の大便ですよ、それも、毎日毎日、手ですくって。

それを「これくらいのこと」と…果たして言えるだろうか？

そして、この話を鷹取中学校の校長先生から聞いたときに、僕は人間ってすごいなあと思いました。

中学生の子どもたちが、自分も十分な生活ができない中、他人の大便を手で毎日すくっていることを「これくらいのことだったら」と言えるすごさ、本当に人間ってすごいなあと思いました。

そんなすごさ、とても大変な状況の中でも「これくらいといえる」すごさ、実は、ここにいる皆さん一人一人の心の中にも、秘められているのではないかと思います。

今世の中は、災害や紛争、そして様々なレベルでの分断や対立等、かつてないほど、厳しい状況に直面しているのではないかと思います。

だからこそ、「これくらいのことだったら僕でもできる」という人間の力が求められているのではないかと思います。

私はそんな人間の力を信じたいと思っています。

おかげさまで、ここ数年、様々な年代、様々な立場の方々が、私たちとともにこの活動の携わってくれております。

また、私たちの活動に関心を抱いてくれる県民の皆様や、署名を行ってくれる方々も増えてまいりました。

いうまでもなく北方領土問題は、主権を有する私たち国民の問題であり、元島民の人間としての尊厳にかかる重要な問題です。

だからこそ、一人でも多くの人々にこの問題に知っていただくとともに、元島民の想いに寄り添っていただくためにも、「これくらいのことだったら僕でもできる」というスタンスで、これからも地道に活動を進めていきたいと思っています。

そして、「これくらいのことだったら僕でもできる」という人を一人でも増やしていきたいと思っています。

本日は、このあと、そんな想いで取り組んでいる TEAM HOKKEN の活動報告や現地視察に参加した子どもたちによるポスターセッション、さらには、アップダウンさんによる「ふるさと」というすてきなパフォーマンスを、皆さんとともに心から楽しみたいと思います。

どうぞよろしく願いいたします。